

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（4月－12月）の概況

売上高は29,317百万円（前年同期比45.9%減）、営業損失6,599百万円（前年同期は営業利益2,036百万円）、経常損失5,633百万円（同 経常利益2,066百万円）、四半期純損失3,215百万円（同 四半期純利益1,227百万円）となりました。

業績変動の主因は、下記の通りです。

当社グループは、IP（知的財産）を中核とした循環型のビジネスモデルに基づき、IPの育成・事業化を推進していますが、当第3四半期連結累計期間の業績変動は、主として遊技機販売に起因しています。

遊技機販売においては、販売スケジュールを見直した結果、当第3四半期（10－12月）の売上計上は、『CR ayumi hamasaki 2』1機種（前年同期ではパチンコ1機種、パチスロ1機種）のみとなりました。

これにより、当第3四半期連結累計期間の売上計上は、パチンコ2機種、パチスロ1機種（前年同期は、それぞれ4機種、3機種）となりました。また、当第3四半期連結累計期間の販売台数は、パチンコ118千台、パチスロ35千台（前年同期と比較して、それぞれ20千台減、57千台減）、総販売台数が153千台（同 78千台減）となり、上述の経営成績となりました。

なお、第4四半期（1－3月）には、パチンコ3機種、パチスロ2機種を売上計上する予定です。

パチンコでは、平成26年12月に投入し、10万台以上を販売した『CRエヴァンゲリオン9』をはじめ、『CRバットマン』、『ぱちんこ ウルトラバトル烈伝 戦えゼロ！若き最強戦士』を投入する予定です。

パチスロでは、平成27年1月に投入した『サラリーマン金太郎 出世回胴編』に加え『パチスロ ベルセルク』を投入する予定です。

これにより、通期の販売機種数は、パチンコ5機種、パチスロ3機種となり、当初計画（それぞれ、4機種、8機種）と比較して、パチスロが大幅に減少する見込みです。一方で、積極的な営業活動もあり、各々の販売実績は、概ね当初計画を上回りました。また、今後の販売予定機種についても、計画を上回る見通しとなっています。これらのことから、販売スケジュール及び投入機種数の変動はあるものの、通期の業績見通しにつきましては、当初計画通りとしています。

当第3四半期連結累計期間の主なIPの創出・事業化の取り組みは、下記の通りです。

当社が推進するIPのクロスメディア展開にあたっては、当社グループはもとより、パートナー企業や外部のクリエイター、プロデューサーと積極的に協業しながら推進しています。

新規IPの創出に向けた『月刊ヒーローズ』では、創刊から3年を経過し、これまでに49作品を掲載しました。そのうち7作品については、映像化プロジェクトに着手しており、ゲーム、映画、パチンコ・パチスロなどでのクロスメディア展開が進捗しています。

IPの育成・収益化を担う取り組みでは、株式会社円谷プロダクションにおいて、『ウルトラマン』シリーズの新たなファン層の開拓に向け、国内外で幅広い顧客接点の拡大を図っています。国内では、ファミリー層向けのアプローチとして、継続的なテレビシリーズの放送はもとより、平成27年3月には劇場公開を予定しています。さらに、舞台『ウルトラヒーローズ THE LIVE アクロバトル クロニクル』を平成27年3月から上演し、今後、海外展開も予定しています。

ソーシャルゲームでは、『AKB48』を活用したタイトルの活性化を図るべく、新コンテンツの追加やリアルイベントなどの施策を実施しました。そのほか、当第3四半期は、新規にアニメコンテンツを活用したゲームを1タイトル投入しました。

(注) 本文に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(注) 当第3四半期連結累計期間の遊技機販売台数は、千台未満を切り捨てて表記しています。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

流動資産は、33,228百万円と前連結会計年度末比33,692百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、12,399百万円と前連結会計年度末比294百万円の増加となりました。

無形固定資産は、4,501百万円と前連結会計年度末比135百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、20,633百万円と前連結会計年度末比844百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は70,762百万円と前連結会計年度末比34,106百万円の減少となりました。

(負債の部)

流動負債は、12,801百万円と前連結会計年度末比28,928百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,225百万円と前連結会計年度末比160百万円の減少となりました。これは主に退職給付に係る負債の減少によるものです。

以上の結果、負債の部は17,027百万円と前連結会計年度末比29,088百万円の減少となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、53,735百万円と前連結会計年度末比5,017百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ16,292百万円減少し、13,290百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、12,232百万円（前年同期は398百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失5,266百万円、仕入債務の減少28,428百万円、売上債権の減少23,725百万円、法人税等の支払1,951百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,838百万円（前年同期は2,460百万円の支出）となりました。これは主に貸付けによる支出3,220百万円、投資有価証券の売却による収入828百万円、有形固定資産の取得による支出1,438百万円、無形固定資産の取得による支出1,196百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、778百万円（前年同期は2,043百万円の支出）となりました。これは主に短期借入れによる収入2,510百万円、配当金の支払1,652百万円等によるものです。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。